

農耕車の事故防止へ

山形県とJAグループ啓発運動

広報車やラジオで注意喚起

【山形】山形県とJAグループ山形は、4月から春の農作業事故防止啓発運動を展開している。既に死亡事故が2件発生し、後を絶たない農耕車の公道での交通事故防止にも重点を置き、広報車やラジオなどで注意を呼び掛けている。

運動は11月30日まで。特に6月10日までは春の農作業、5月24日～7月10日はサクランボの収穫作業、9月1日～10月30日は秋の収穫に伴う事故防止の運動を強化する。

県内では4月下旬、朝日町で87歳男性がトラクタの下敷きになって死亡。9日には鶴岡市で72歳女性が耕運機の下敷きになり死亡した。

県とJAグループ山形は広報車でちらしを配り、講習会などで農業機械の転落や転倒事故防止に注意を促す。JA共済連山形提供の山形放送ラジオ「おはよう！セーフティードライブ！」でも農作業の現場などから注意を喚起している。

県警本部によると、農耕車の交通事故は2016年までの5年間で21件発生。15年には1人死亡した。4～6月に多発し

ポットセンターなどは、車体は後続車から目立つように常に汚れを落とすし、反射材の装着や交差点の安全確認、シートベルト着用やブレーキの点検などを呼び掛けている。